



パイズリあくま

拾った悪魔にパイズリ搾精されるボク

射精する...

そんなところ...

た...ダメ!!!

あっ♡
また射精たり

フルカラー漫画

本文 31p

リリス

少女体 身長156cm B/W/H 100(Jカップ)/58/88

成人体 身長180cm B/W/H 110(Jカップ)/62/92



主人公に拾われた傷ついた悪魔
最初は口数少なく大人しかったが、主人公の看病により
復活するも主人公に対しパイズリ搾精を行うようになる。
主人公の精子を吸い身体も成人体へと変化。
果たして彼女がパイズリを執拗に行う理由とは

ある日
ボクは傷ついた
悪魔を見つけた

薬売りとして生活
しているボクは今日の
商売の帰り道

見た目はボクと
同じ年齢くらいの
悪魔が座り込んでいた

悪魔はどうやら
喋る事ができない
みたいだ

代わりに弱った眼で
僕に語りかけてくる

この世は今
人間と悪魔が
争いを続けて
いる……

すっ
だけど、ボクは
常日頃考えていた
「人と分かり合える
悪魔もいるはずだ」と

薬屋として
傷ついた人を放って
おけなかった……
たとえそれが悪魔だと
しても……

それにボクは
子のことわかりあえる
事ができたら……
なんて少し希望を抱いた

ボクは彼女に「リリス」という名を付けて呼ぶことにした

ボクはリリスに充分な食事を与え……



ケガを治療し
ゆっくり休息
できる場を与えた

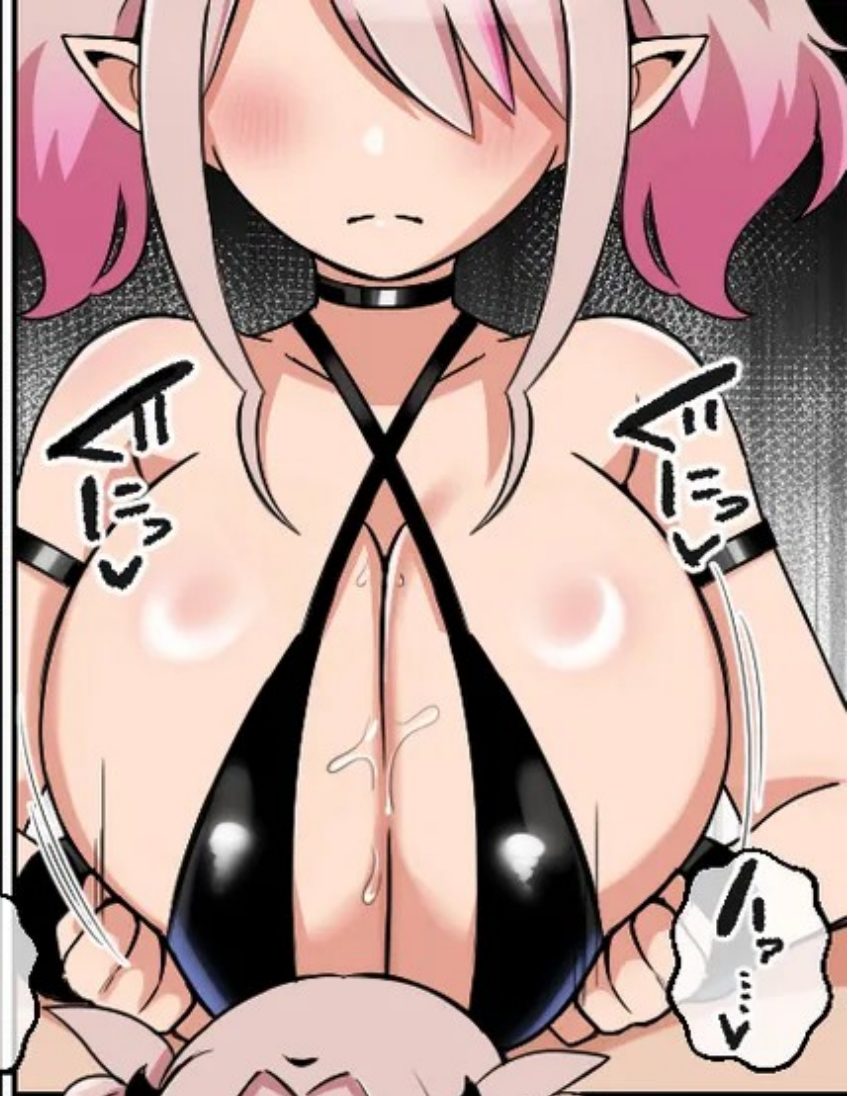
そのかいあってか
リリスはみるみる
うちに回復した

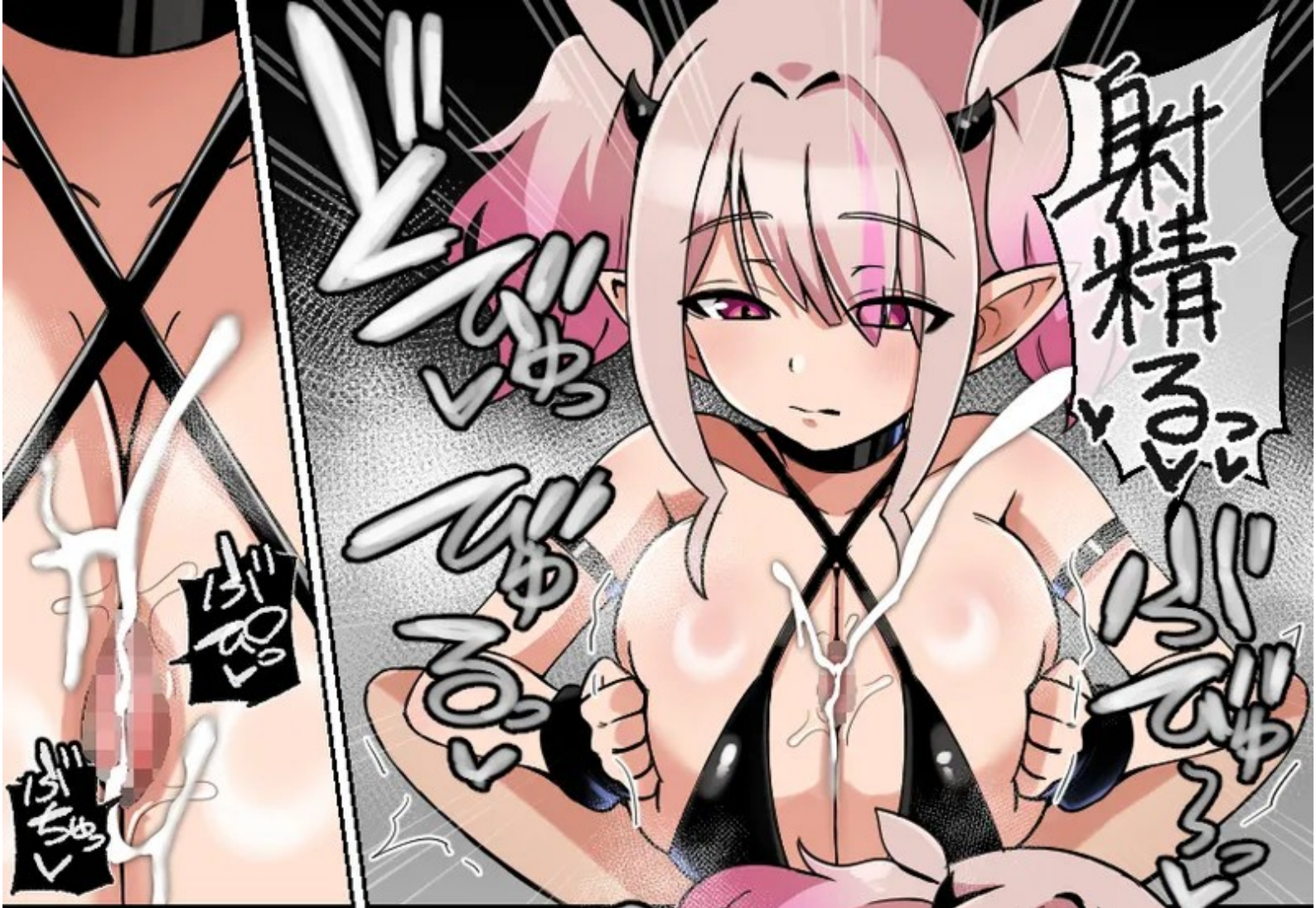
まだ言葉を
発することは
できなさそう
だったけど……

ボクに少しずつ
心を開いてくれて
いるのを感じた

そんな彼女を見て
「わかり合える時が
きたんだ!」と
感動していたのに……







射精

びゅーびゅー



リリースの怪我が完治してすぐだった彼女がこのような行為を行うようになったのは

理由を聞いても物言えぬ彼女は無言でひたすら胸で搾精行為を続けるのだ……

この行為の後ボクは決まって気を失ってしまう

ど……
どうして……

こんな……っ

気を失う直前彼女が笑っているような気がした

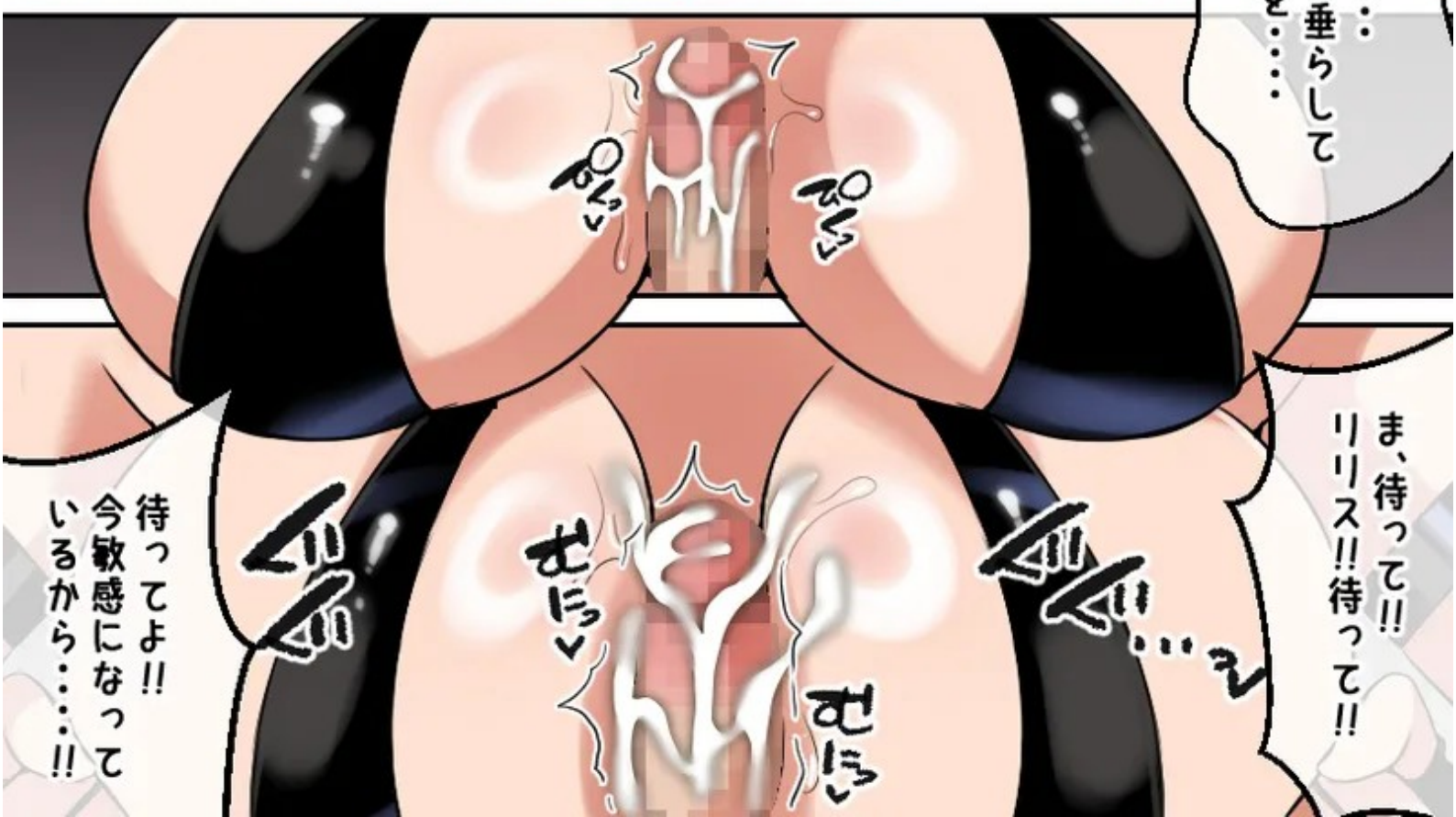
どっ

どっ





えっ……
精液を垂らして
な、何を……



ま、待って!!
リリス!! 待って!!

待ってよ!!
今敏感になって
いるから……!!



これ以上は
もう……っ!!

こわれる!!
こわれちゃう
よあっ!!



かほっ

ハッ
ハッ
ハッ



ボクがどれだけ
身をよじらせても
彼女はボクを逃が
そうとはしなかった

……



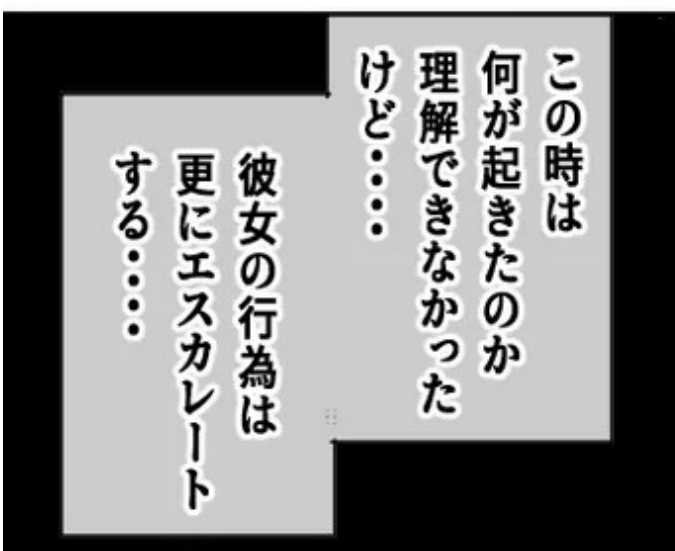
彼女の身体は
何故か明らかに
成長を見せていた



ようやく解放されたと
思ったその時……



!?



この時は
何が起きたのか
理解できなかった
けど……
彼女の行為は
更にエスカレート
する……

リリースを連れ帰って
すでに数週間が経っていた

あああ
あ
あ

ブルブル

ブルブル

ブルブル

ブルブル

そんなところ……

だ……ダメエ!!!

彼女はおっぱいで
何度もしつこく
ボクの精子を
搾り取った

何故おっぱいで
こんな事を続ける
のかさっぱりわか
らなかったけど

抗うことも出来ず
ボクは彼女にいいように
されていた……

ううう

ブルブル

ブルブル



リリースの行為は
ついに時間を
選ばなくなり……

睡眠前はもちろん
入浴時でもかま
いなしにボクの精液
を求めてきた

あ……
ま……待って……

ヌルヌル
気持ちいい……っ

ボクに安息の
時間は無くなって
いった

ズ
ズ
ズ

また
イ
く
く
……

ギャ……





そして
搾精され続けた僕の
身体に変化が訪れていた
……



しかしそれと同時に
勝手に身体は彼女の
搾精行為を受け入れる
ようになっていた



不思議な事に
食欲と睡眠欲が
次第になくなって
いった

やだあ……♡
気持ちいいの
止まらない♡

身体は疲れている
ハズなのに、休息を
取らなくても平気
になっていた



抵抗しようともせず
身体が勝手にリリース
を求めているかのように
……

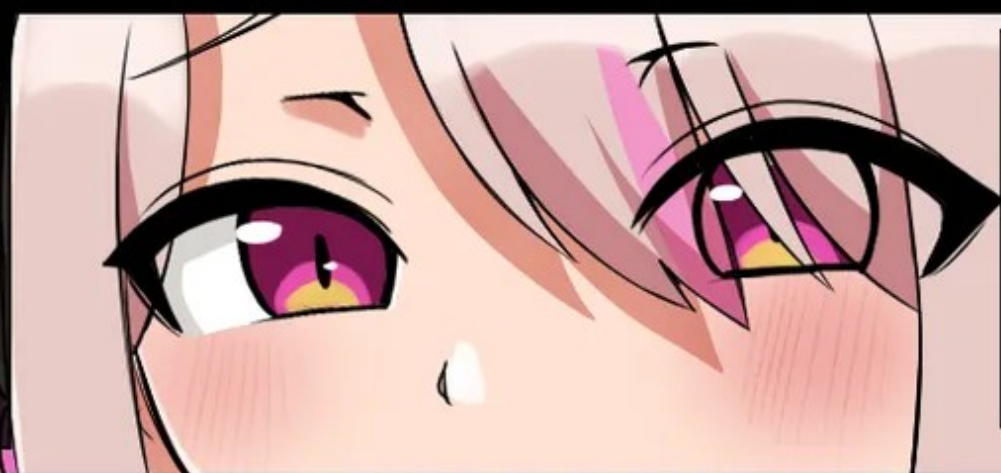
ご主人様が
傷ついた私を
助けてくれた時……

私、ご主人様の
思考が少し読めたん
です



知ってましたか？
悪魔は人間の
考えている事や
欲望がわかるん
ですよ？

その時のご主人様
こう考えていました
よね……？



このおっぱいを好きにしたいって……♡

たゅん

な、何を
言ってるんだ!?

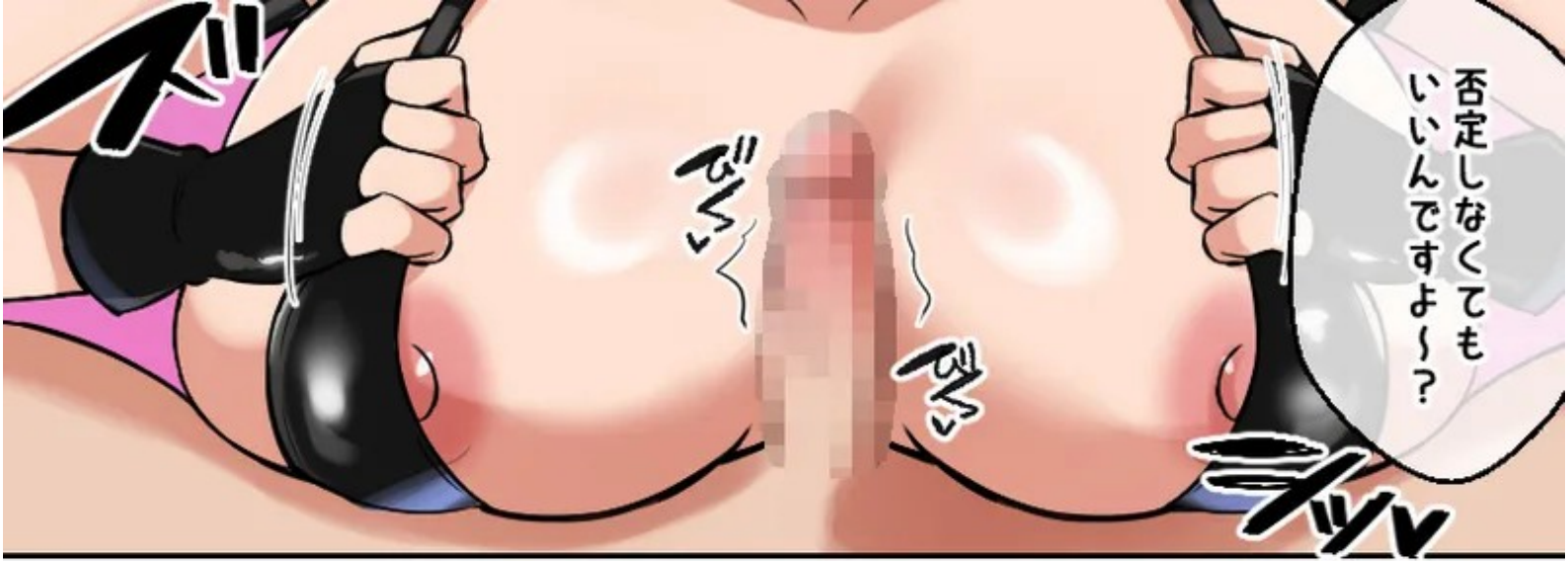
えっ!?

ほ、ボクはそんな
つもりで君を助け
た訳じゃ……!!

ふっ……



ドキ



否定しなくても
いいんですよ？



私、ご主人様の欲を
満たして恩返し
できればと思っ……

こうしてご主人様が
気に入ったおっぱいで
たくさん気持ちよく
させていただけいて
るんですから……♡

え……っ!?



この時ボクは
ようやく理解
した

リリースはそもそも
考え方が違うと
いうことに



だから
たっぷり気持ちよく
なっ……てく……ださいね♡



いやぁん 激しっ♡

ポクの身体は完全に リリスに支配され

すっこい♡♡

自分の意思とは 関係なく、彼女の胸に 身を委ねた

すっこい♡♡

はぁん♡♡ やぁん♡♡

おっばい 孕まされそう ですよ♡

わざとらしく 喘いで挑発する だけどボクは何も できなかった

ハァッ♡

ハァッ♡



悪魔と人間は
分かり合う事が
できないと……

あんっ♡ご主人様♡
とくっても恥ずかしい
かつこうで……

おっぱいに
パンパンツ♡て
しちゃってますね♡

ずっ
ちゅい

ずっ
ちゅい

ほん
ぽん

ほん
ぽん

ほん
ぽん

いっっぱい私を
感じてくださいね♡

まっふっ

彼女にとっては
恩返しのため
だろうけど

んっ！！

ボクにとっては
相当な拷問だった

イケ♥

全部射精

しろ……♥



彼女の支配
から

ボクはもう
逃れる術を
なくした



おんっ

んも!!

あんっ♡ご主人様♡
そんなに動かないで
くださいよぉ♡

お〇んちん
挟み辛いじゃない
ですかぁ♡

ズレ
ズレ

んっ
んっ
んっ

おんっ

おんっ

おんっ

おんっ

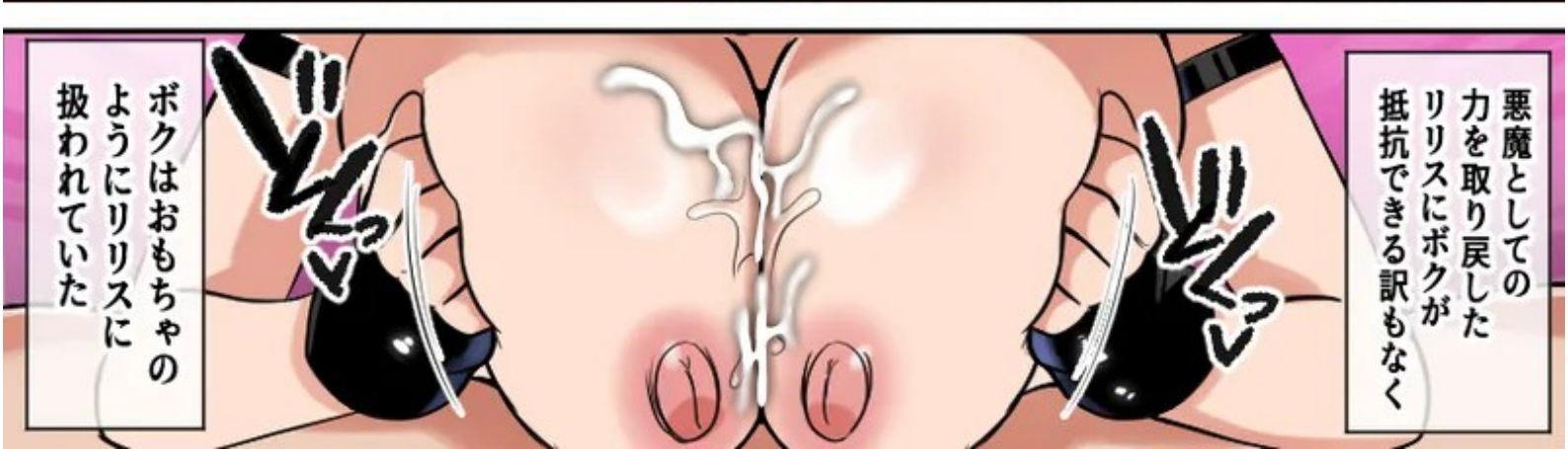
おんっ

もう少し
大きな声で
言ってください
……

ん?
なんですか?

んっ

おんっ



ご主人様
はく……

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

亀さんを
こういう風に
されるのが
好きですもんね♡

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

リリースのおっぱいは
何度もボクのお○ちんを
包んでは刺激を与えた

はくあ♡
イクイク……
またイク♡
お○ちんビクッで
反応してる♡

もう早漏なんで
すからご主人様♡
ほら、イクイクイク
イクイク……イク♡

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

もう自分でも何度
乳内射精したか
わからなかった

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

ん……っ♡
ご主人様……♡

またいっぱい
射精たね♡

んんん

搾り取った
精子をリリースは
口に含み咀嚼して
飲み干す

ボクにわざと
らしく見せつけ
興奮を煽る行為
だった

んんん

んんん

もう反応したく
ないのに……
そんなリリースの姿を
見せつけられたら
否応なしにまた
ボクのお○ちゃんは
硬くなる……

それを見たリリースは
またパイズリ搾精を
始める……
もう休ませるつもり
なんて彼女はさらさら
ない

んんん

んんん

ふう……♡

ご主人様
もつと気持ちよくな
りましょうよ♡

パイズリで
気持ちよくなる
だけの身体に
なっちゃいませよ♡

おっぱい大好き
なんですよね？



ち...
ちがっ...

ボクが
助けたのは
...

そんな
理由じゃ...

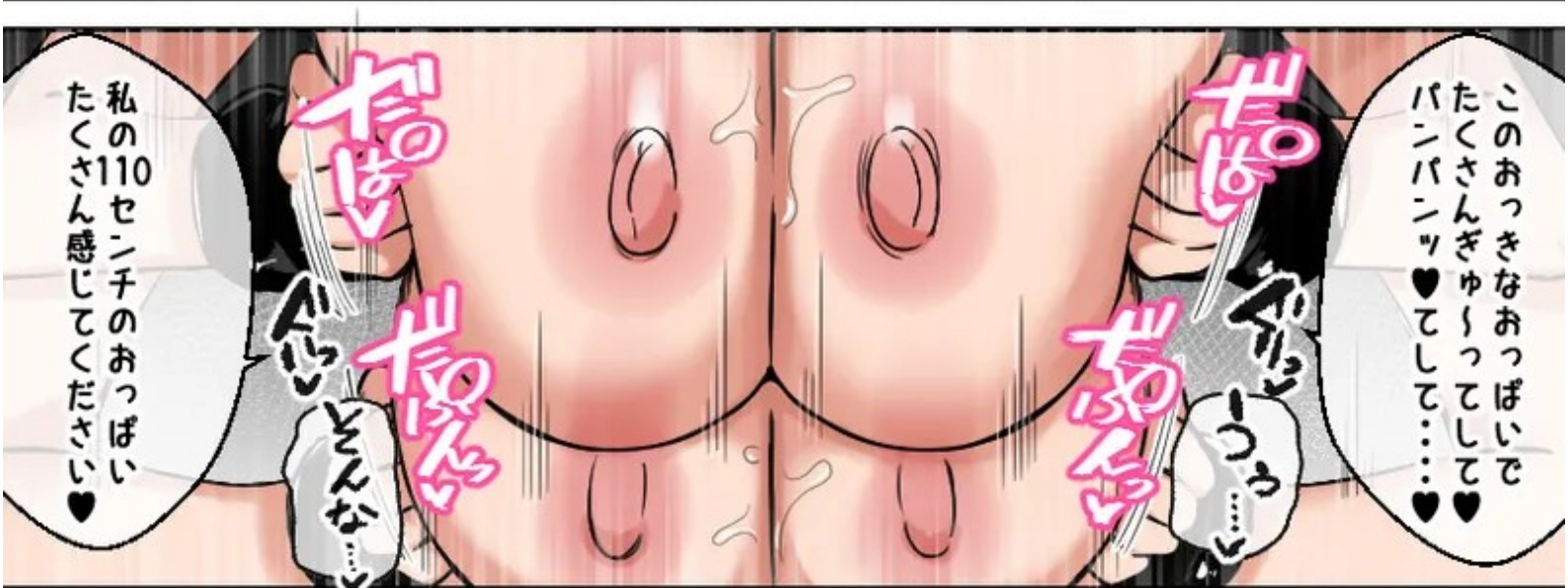


だーかー
らー♡

そういうの
もういい
ですって♡

あーっ
んんんんん





悪魔は人の欲望を見透かす」と聞いた事がある

善意でボクは助けたつもりだった…けど彼女はボクの中の小さな「欲」を見逃さなかったのかもしれない…

彼女の言葉でボクの最後の砦は崩されてしまった

ボクはおっぱいに魅了されてリリースを助けた欲深い人間です

ボクはおっぱい大好きな偽善者です!!

だから…だからイカせてください…っ!!

よく言えました〜♡

ん〜♡いいですよ〜♡
じゃあまたどっぴゅんさせてあげますね〜♡

ほらっ♡
ぽんっ♡ぽんっ♡
ぽんっ♡ぽんっ♡
イケイケイケイケイケイケイ…♡





ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん



あつ...
なっ...
♡♡

びゅっびゅっ
びゅっびゅっ
♡♡
て溢れ出て
ますよ♡

びゅっびゅっ

びゅっびゅっ

びゅっびゅっ

びゅっびゅっ

びゅっびゅっ

あ...

あ...

あらあら……
ご主人様……

完全に
トんじやって
ますね……♡

ふふ……♡
やつと正直に
言ってくれて
私嬉しいです♡

おっぱい大好き
ご主人様には
もつとおっぱいで
気持ちよくして
あげます♡

ボクはこれからも
リリスに支配される
だろう……

これからも
ずっと……♡

「パイズリあくま」
の魅力に抗えない
まま……ずっと、ずっと



射精する

た...タメ!!!
そんなところ...

あっ♡
また射精た♡

ついでに